

エゾネジレバネの新分布地

宮永龍一¹⁾・前田泰生¹⁾

A New Distributional Record of *Halictoxenos borealis* in Japan (Strepsiptera, Stylopidae)

By Ryôichi MIYANAGA and Yasuo MAETA

Abstract *Halictoxenos borealis*, which parasitized *Lasioglossum (Evylaeus) apristum*, was first collected at Mt. Daisen, Tottori Pref. This stylopid species seems to be bivoltine, synchronizing the host life-type in southwestern Japan.

Key words: Distributional record; life cycle; stylopid; *Halictoxenos*.

エゾネジレバネ *Halictoxenos borealis* KIFUNE, HIRASHIMA et MAETA の寄主には、1) ニジイロコハナバチ *Lasioglossum (Evylaeus) apristum* (VACHAL) [1化性, 真社会性 (北海道では単独性): MIYANAGA *et al.*, in print], 2) ニッポンチビコハナバチ *L. (E.) japonicum* (DALLA TORRE), [2化性: TAKAHASHI & SAKAGAMI, 1993], 3) ヒラシマチビコハナバチ *L. (E.) taniollellum* (VACHAL) [1化性 (北海道), 単独性: SAKAGAMI, 1992], 4) オオエチビコハナバチ *L. (E.) ohei* HIRASHIMA et SAKAGAMI [1化性 (北海道), 共巢性: SAKAGAMI *et al.*, 1966; 2化性 (島根県), 共巢性, MAETA *et al.*, unpub.] の4種があり, *Halictoxenos* 属では珍しく複数種の寄主をもつ。これまでの分布地には, 北海道小樽市奥沢・同登別市登別温泉 (寄主番号1), 埼玉県秩父郡小鹿野町 (2), 埼玉県大里郡江南町・同幸手市権現堂堤 (3), 埼玉県大里郡江南町 (4) が知られている (KIFUNE, *et al.*, 1982; 木船・南部, 1995a, 1995b). 上述の寄主類の分布域は, 4種とも北に偏っている傾向がある (平嶋, 1989). 西南日本では, 比較的標高の高い山岳・山間地に限定されている。筆者らは, これまで鳥取県大山を中心にニジイロコハナバチの生態と社会性について研究を実施してきた。

1982年, 1984年~1986年の各秋季に, 大山でニジイロコハナバチの新女王とオスを合計306♀♀と381♂♂採集したが, 被寄生個体を発見できなかった。1998年6月25日に, 筆者の一人, 宮永が大山で初めてエゾネジレバネの寄生した越冬メスを1個体 (4-5節背板間に1♀寄生) 採集したので, ここに報告する。寄生率は, 西南日本ではきわめて低いらしい。なお, ネジレバネの母体内では1齢幼虫がすでに孵化し, その脱出プロセスはステージⅡであった (前田, 1963)。

ワーカーが出現する以前に1齢幼虫を放出していたことから, エゾネジレバネにおいては越冬世代は秋季に出現する寄主の繁殖世代に, 第1世代は夏季に出現するワーカーに寄生する2化性であると推定される。寒冷地の北海道では, 寄主のニジイロコハナバチは単独性である (MIYANAGA *et al.*, in print). 北海道では, 7月25日に1齢幼虫を放出中のエゾネジレバネが採集されている (木船・南部, 1995a). 西南日本の大山と北海道では, ネジレバネの出現期に約1ヵ月の差があるらしい。

ニジイロコハナバチのように, 寄主が1化性でも真社会性種であれば, ネジレバネが多化性となる例は, スズメバチ類 (1化性, 真社会性) に寄生するスズメバチネジレバネ *Xenos moutoni* でも見られる。松浦・山根 (1984) は, 本種は少なくとも3化性であると記述している。事実,

¹⁾島根大学生物資源科学部

木船・牧野 (1996) は宮崎県において9月中旬～11月上旬に採集したスズメバチネジレバネ (寄主はオオスズメバチ *Vespa mandarinia japonica* のワーカー) が, この時期に1齢幼虫を放出していることを確認している.

引用文献

- 平嶋義宏 (監修), 1989. ハチ目 (『日本昆虫総目録』所収). pp. 541-692. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 福岡.
- 木船悌嗣・南部敏明, 1995a. *Pulex*, (84) : 450-451.
- ・———, 1995b. 昆虫と自然, 30 (5) : 12.
- ・牧野俊一, 1996. *Pulex*, (85) : 459.
- KIFUNE, T., Y. HIRASHIMA & Y. MAETA, 1982. *Esakia*, (19) : 151-160.
- 前田泰生, 1963. 昆虫, 31 : 1-14, 2 pls.
- 松浦 誠・山根正気, 1984. スズメバチ類の比較行動学. xvi+428 pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 坂上昭一, 1992. ハチの家族と社会. 210 pp. 中央公論社, 東京.
- SAKAGAMI, S. F., Y. HIRASHIMA & Y. OHÉ, 1966. *Bull. Fac. Agr., Kyushu Univ.*, 13 : 673-703.
- TAKAHASHI, H. & S. F. SAKAGAMI, 1993. *Jpn. J. Ent.*, 6 : 67-278.